

選択制限は意味フレームに由来する

1 問題設定と主張

[3, 4] のデータ (§2 で後述) に基づき, “襲う” の **選択制限 (selection(al) restrictions)** について次のことを主張する: “ x が y を襲う” を $P(V, \mathcal{M})$ ($V =$ “襲う”, $\mathcal{M} = \langle x, y \rangle$) と表わすと, 変項 x, y の選択 (制限) が相互依存的であり, $V =$ “襲う” が選択しているのは, 一つ一つの項ではなく, 項の取りあわせ \mathcal{M} である. これが正しければ, 選択制限の基本問題は “ \mathcal{M} を定義する概念構造は何か?” と同じである. V と \mathcal{M} の対応は, ヒトが区別可能な “状況” をコードする理解の単位, すなわち **意味フレーム (semantic frames)** [1] によって規定される, というのが本発表の主旨である.

これから帰結するのは, **一般には動詞の意味 V (の決定) それ自体が \mathcal{M} から独立しているとは言えない**ため, 選択制限が V の語彙的な特徴に由来すると規定することには本質的な無理がある, ということである. 選択制限は一般に語彙的な現象ではなく, **構文効果 (construction effects)** の一つであると言えるが, 構文効果は意味フレームから予測可能な効果である. 従って, [2] の **構文 (constructions)** による構文効果の説明が緻密化される可能性もある.

2 基本データ

図 1 に “襲う” の意味フレームのネットワークを示す. これは [3] の結果を改訂である. 以下の “襲う” の分析はこの記述に基づく.

x が **〈自然災害〉** の場合, x, y の選択は互いに独立していない.

- (1) a. 高波が太郎を襲った
b. 高波がそのグループを襲った
c. ??高波がその町を襲った
d. ?*高波が和歌山県を襲った
- (2) a. ?*津波が太郎を襲った
b. ??津波がそのグループを襲った
c. 津波がその町を襲った
d. 津波が和歌山県を襲った

高波の被害の規模には上限があり, 被害者 y の規模が大きくなり過ぎると逸脱性が現われる. 津波には被害の規模に下限があり, 被害者 y の規模が小さくなり過ぎると逸脱性が現われる.

x が **〈犯罪者〉** の場合も同様に, x, y の選択は互いに独立していない.

- (3) a. ???強盗が通行人を襲った
b. 強盗がその銀行を襲った
c. ?強盗がその (平和な) 町を襲った
d. ???強盗が大阪を襲った
- (4) a. 通り魔が通行人を襲った
b. ???通り魔がその銀行を襲った
c. 通り魔がその (平和な) 町を襲った
d. ??通り魔が大阪を襲った

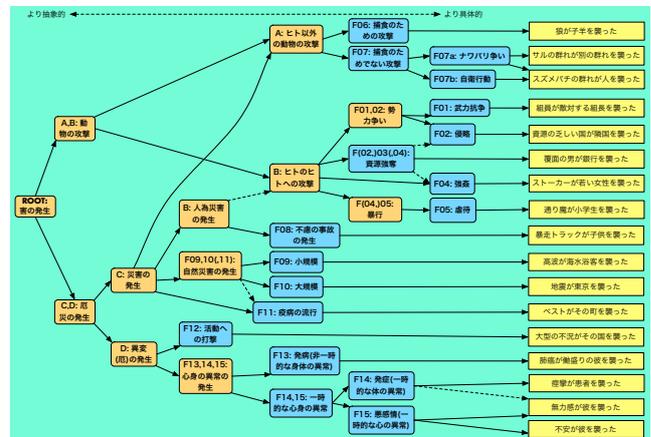


図 1 “襲う” のフレームの階層ネットワーク

参考文献

[1] Fillmore, C., Johnson, C., and Petruck, M. 2003. Background to FrameNet. *International J. of Lexicography*, 16 (3), 235–50.

[2] Goldberg, A. 1995. *Constructions*. University of Chicago Press.

[3] 黒田航・中本敬子・野澤元. 2004. 状況理解の単位としての意味フレームの実在性に関する研究. 日本認知科学会第 21 回大会発表論文集, 190–1.

[4] 中本敬子・野澤元・黒田航. 2004. 動詞「襲う」の多義性: カード分類課題と意味素性評定課題による検討. 日本認知心理学会第 2 回大会発表論文集, 38.